



1/21

未来を読み、来てもらえる「かみはやし」を考える 関係人口創出事業ミーティング開催（神林地域）

神林地区関係人口創出事業実行委員会は、関係人口創出事業ミーティング「未来の“かみはやし”をどうデザインしますか？」を開催しました。

冒頭、進行役を務めた情報発信部会長の内山秋善うちやまあきよし氏から、近い将来に起こりうる日本の動向や、身の回りの生活環境についてある一定の仮説を立て、変化していくと思われる事項について情報提供をしてもらいました。その後、パネリスト5人の委員から今年の活動の振り返り、関係人口創出方法や来年度の意気込みなどについて話し合いました。

今回のミーティングの内容は、今月中に市内に配布し、また市ホームページにも掲載を予定しています。



▲内山情報発信部会長が作成した資料を見入るパネリストの皆さん

1/24

オンラインでつながるフラダンスショー ハワイアンフェスティバル in 瀬波2020（瀬波温泉「大観荘せなみの湯」）



▲3会場をリモートでつないで配信



▲ロビーは常夏のハワイのように

中越沖地震の風評被害を乗り越えるために2008年から始まったフラダンスイベント。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、今年の夏は絶対に開催したいという思いから、瀬波温泉と以前から交流のあった「福島県いわき市」と「ハワイ州ホノルル市」の各会場をリモートでつないでフラダンスショーを開催。その様子をYouTubeでライブ配信しました。

瀬波温泉の会場となった「大観荘せなみの湯」のロビーでは、ハワイアンミュージシャンによるライブやフラダンスセッションが行われ、ほかの各会場でもフラダンスショーを披露。また、各会場をリモートでつないだトークショーでは、今年の夏のフェス開催についてなどさまざまな意見交換が行われました。

1/28

働くこととは？先輩からメッセージ 総合学習で「職業講話」（朝日中学校）



▲笑いあり驚きありの話に生徒も興味津々

朝日中学校1年生を対象に、総合的な学習の一環として「職業講話」が行われました。

仕事を選んだきっかけや職場での役割、やりがいや苦勞など、地元出身の先輩からの実体験を交えた話に、生徒も真剣な表情で耳を傾けていました。

「お客さんとコミュニケーションをとって、笑顔になってくれるのが嬉しい」「この地で生まれ育って良かった」といった先輩の生き生きとした姿を見て、ウエディングプランナーになるのが夢だという生徒は、「接客やコミュニケーションがすごく大事だと思った」と心に響いた様子。

将来の夢を目指す生徒たちには、ワクワクする時間になったようです。

1/28

寒い時期だからこそ声が鍛えられる 「大須戸能」の寒稽古が始まる（大須戸集落）

県指定無形民俗文化財である大須戸能。毎年4月3日に行われる定期能に向け、1月10日から計10日にわたる寒稽古が行われました。

寒く、声の出づらい時期だからこそ「腹」から声を出すためにあえて行われる寒稽古。この日は10人の演者が集まり、調和のとれた厚みのある声が、大須戸担い手センター内に響いていました。

長年の稽古で鍛えられてきたある演者は「10分以上謡い続けても腹から声を出しているから疲れないよ」と話し、五穀豊穰と健康を祈念して奉納される春の本番に向け、稽古に精を出していました。



▲仕事が忙しくても芸を守る演者たち

2/5

初めての体験でもめきめき上達 スケートボード体験教室（村上市スケートパーク）



▲コーチの指導でめきめき上達

金屋小学校5、6年生が学校体育授業として、村上市スケートパークを訪れ、スケートボード体験を行いました。

例年冬に行われていたスキー実習に代わるものとして行われ、ほぼ全員が初体験となるスケートボードを楽しみました。

コーチから、スケートボードの乗り降りの仕方や足の置き方、体の向きなどを教わると、飲み込みの早い子どもたちは30分ほどで、緩やかな斜面をスイスイと滑走していました。

2/6

熱い演奏が響き渡る！ おでかけ鼓童（ゆり花会館）

佐渡市を拠点に活動する太鼓芸能集団「鼓童」が、ミニライブを開催しました。これは、文化庁などが主催するJAPAN LIVE YELL project（ジャパン・ライブエール・プロジェクト）の一環として、ライブへのエールを贈ること、ライブからエールをもらうことを目的に開催されたものです。

感染症対策を徹底し、昼と夜の2回に分けて開催されたライブには、合わせて100人以上が来場しました。

ライブを鑑賞したさんぽく小学校2年生の女子児童は、「演奏が心に響いた」と目を輝かせていました。



▲約1時間のライブで、9曲の演奏が行われました

2/9

メッセージ入り横断幕で医療従事者を激励 荒川中学校の地域貢献活動（県立坂町病院）



▲全校生徒237人からのメッセージが添えられました

荒川中学校が地域貢献活動の一環として、新型コロナウイルス感染症の最前線で闘う医療従事者への激励と感謝の気持ちを伝えようと県立坂町病院を訪れました。3週間をかけ全校生徒で寄せ書きをしたメッセージ入りの横断幕を本間院長に手渡しました。

「雨はいつか必ずやみます。その後には私たちの未来を彩る花が咲くことでしょう」と生徒からの激励を受けた本間院長は、「こういう気持ちをもった生徒が近くに住んでいて、一般住民の方も同じ気持ちになっていただいているんだろうなと想像しながら、普段の診療に当たりたい」と話していました。